

平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年11月2日

上場会社名 シダックス株式会社 上場取引所 大  
 コード番号 4837 URL <http://www.shidax.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 志太 勤一  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 兼 経理財務本部長 兼 IR担当 (氏名) 若狭 正幸 TEL 03-5784-8909  
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	92,142	△0.9	2,009	△7.0	1,879	17.4	732	232.1
24年3月期第2四半期	92,998	△4.7	2,161	—	1,601	—	220	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 773百万円 (296.0%) 24年3月期第2四半期 195百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	19.80	—
24年3月期第2四半期	5.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第2四半期	90,186	20,135	22.2	558.21
24年3月期	89,679	20,445	22.7	544.18

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 20,039百万円 24年3月期 20,351百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	195,000	3.6	7,000	18.8	6,000	23.6	1,000	28.0	26.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期2Q	40,918,762株	24年3月期	40,918,762株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	5,019,726株	24年3月期	3,519,588株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期2Q	36,997,478株	24年3月期2Q	38,489,491株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての御注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

当社は、第2四半期決算及び期末決算において、機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催しております。この説明会で配布しました資料を当社ホームページ（<http://www.shidax.co.jp/ir/>）に掲載しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11
(6) セグメント情報等 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要を背景として、経済活動に回復の兆しがみられたものの、欧州債務危機に伴う海外経済の減速、新興国の成長鈍化、長期化する円高や株価の低迷などにより先行き不透明な状況が続いております。また、個人消費におきましても、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識や節約志向が高まるなど、企業を取巻く環境は厳しく推移しております。このような市場環境のもと、当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かした営業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は92,142百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。利益面につきましては、営業利益は2,009百万円（前年同四半期比7.0%減）となり、経常利益は1,879百万円（前年同四半期比17.4%増）、四半期純利益は732百万円（前年同四半期比232.1%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、商品・物流コスト削減、在庫の削減などに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によって、スケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルギー関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は21,145百万円（前年同四半期比8.5%減）、セグメント利益は1,857百万円（前年同四半期比15.1%減）となりました。

#### ② コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、各企業の生産調整・人員配置の見直しなどによる雇用環境の悪化によって、経営環境は大変厳しい状況にあります。このような環境のもと、「陳建一プロデュース四川料理フェア」などのイベント展開、一元物流システムの導入強化、適正な労務体制の確立、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上を目指してまいりました。また、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、車両運行管理サービスなどを含んだ総合的なソリューション提案を行い、収益向上を目指すとともに、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。さらに、福島県相馬市の仮設住宅への食事提供、仮設住宅で食生活セミナーとクッキング教室を開催するなど、震災支援活動にも積極的に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,643百万円（前年同四半期比1.4%増）、セグメント利益は949百万円（前年同四半期比3.2%増）となりました。

#### ③ メディカルフードサービス事業

経済情勢により病院などの経営環境が厳しい状況の中、同業他社との競争は厳しさを増す状況が続いております。このような環境のもと、一元物流システムの導入強化、材料・労務管理の徹底、既存店舗の解約防止を目的としたイベントメニューの構築、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上に努めてまいりました。また、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」など独自色の強い商品の提供を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。さらに、トータルアウトソーシングを意識した新規クライアントの営業開発にも努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,820百万円（前年同四半期比4.6%減）、セグメント利益は636百万円（前年同四半期比6.5%減）となりました。

## ④ レストランカラオケ事業

厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識、節約志向が高まり、お客様のレジャーに対する意識も一段と冷え込み、「安・近・短」嗜好は薄れ、低価格競争も激化しており、大変厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、春・夏メニュー、「ゆったりランチ」の強化・推進、「歌って当てよう INAC神戸レオネッサ・プレゼントキャンペーン」、「一番搾り生ビール・中ジョッキ290円フェア」などのイベント展開、水曜日女性ケータイ会員限定2時間無料(1オーダー制)の「レディースデー」、木曜日男性ケータイ会員限定2時間無料(1オーダー制)の「メンズデー」、女性会員様だけの特別企画「女子会PACK」の推進、マスメディア連動企画の取り組みなど様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、ケータイ会員を拡大(500万人突破)し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。しかしながら、ロンドンオリンピックや猛暑、集中豪雨等の不安定な天候が続くなど外部環境の影響もあり、厳しい結果となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は22,242百万円(前年同四半期比4.0%減)、セグメント利益は590百万円(前年同四半期比13.8%減)となりました。

## ⑤ スペシャリティーレストラン事業

米国における状況は、失業率等の経済指標が改善しておらず、依然先行き不透明な状況が続いております。このような環境のもと、ケータリング事業の強化、季節メニューイベントなどの販売促進活動の実施により売上増加に努めるとともに、店舗原価管理の徹底や不採算店の撤退などにより、収益性の向上に努めてまいりました。

国内における状況は、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化による生活防衛意識、節約志向の個人消費傾向により、外食離れ、低価格サービスへのニーズの高まりなど、競合との競争が激化し、事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。このような環境のもと、季節・催事のイベントを継続、会員メール配信強化により、集客力アップを図るとともに、コスト管理の徹底を行い収益性の向上に努めてまいりました。また、お客様の多種多様なニーズにお応えするためのメニュー開発及び接客サービスの向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は8,585百万円(前年同四半期比1.0%減)、セグメント損失は220百万円(前年同四半期は338百万円のセグメント損失)となりました。

## ⑥ コンビニエンス中食事業

同業他社、大手コンビニエンスストアとの病院内出店の競争激化や、経営状況の厳しい病院、学校、工場の縮小、閉鎖などにより、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、新規店舗を17店舗出店、POSを効果的に活用し発注精度の改善を図るなど、積極的、効率的な売り場展開を行い、店舗内外の営業強化に努めてまいりました。母の日・沖縄フェアなどの催事・イベントや紙オムツなどの衛生商品の販売促進に努めるとともに、労務費、経費の徹底管理により、赤字店舗の改善を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,206百万円(前年同四半期比3.0%増)、セグメント利益は222百万円(前年同四半期比13.8%増)となりました。

## ⑦ トータルアウトソーシング事業

公共サービス分野では、少子高齢化と過疎化の同時進行の中で財政再建と地域活性化ニーズが高まり、着実に民間委託が進んでおります。一方、民間サービス分野では、円高や海外経済の減速、デフレ経済の進行や厳しい雇用情勢の中でコスト意識のさらなる高まりから同業他社との競争が激化しており、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、車両運行管理業務においては、お客様のニーズに応じた車両運行サービスの提案を行い、既存取引先の管理営業強化、スクールバスを中心としたバス運行管理業務の新規受注に努めてまいりました。社会サービス業務においては、従来の学校給食業務及び図書館業務に加え、清掃業務の他、東京都世田谷区、石川県七尾市、広島県竹原市等より指定管理者として施設管理・運営を受託するなど、グループ総合力を活かした営業活動により、シェア拡大と適正運営による収益向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は18,658百万円(前年同四半期比3.9%増)、セグメント利益は970百万円(前年同四半期比7.9%増)となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ507百万円増加し90,186百万円(前連結会計年度末比0.6%増)となりました。流動資産においては、2,176百万円増加し30,288百万円となりました。これは主に、現金及び預金が2,219百万円増加したことによります。固定資産においては、1,669百万円減少し59,898百万円となりました。これは主に、有形固定資産が1,447百万円及び無形固定資産が444百万円減少したことによります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ817百万円増加し70,051百万円(前連結会計年度末比1.2%増)となりました。流動負債においては、1,071百万円減少し38,347百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が303百万円及びその他に含まれているリース債務が831百万円減少したことによります。固定負債においては、1,889百万円増加し31,703百万円となりました。これは主に、社債が1,240百万円及び長期借入金が759百万円増加したことによります。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ310百万円減少し20,135百万円(前連結会計年度末比1.5%減)となりました。これは主に、四半期純利益732百万円の計上及び剰余金の配当560百万円により利益剰余金が171百万円増加した一方、取締役会決議による自己株式取得により自己株式が517百万円増加したことによります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.5ポイント低下し22.2%となりました。

## (キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ2,104百万円増加し11,128百万円(前連結会計年度末比23.3%増)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、4,177百万円の資金増加(前年同四半期は4,858百万円の資金増加)となりました。これは主に、法人税等の支払額が1,332百万円、賞与引当金の減少額が200百万円あった一方、税金等調整前四半期純利益が1,888百万円、減価償却費が3,480百万円、のれん償却額及び負ののれん償却額が404百万円あったことによります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、1,521百万円の資金減少(前年同四半期は1,157百万円の資金減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が854百万円、敷金及び保証金の差入による支出が598百万円及び事業譲受による支出が82百万円あったことによります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、558百万円の資金減少(前年同四半期は849百万円の資金減少)となりました。これは主に、長期借入れによる収入が7,214百万円、社債発行による収入が1,759百万円及び短期借入れによる収入が396百万円あった一方、長期借入金の返済による支出が6,805百万円、リース債務の返済による支出が1,721百万円、社債の償還による支出が237百万円、短期借入金の返済による支出が80百万円、配当金の支払額が560百万円及び自己株式の取得による支出が517百万円あったことによります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月18日に公表いたしました通期の連結業績予想について変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,255	11,475
受取手形及び売掛金	12,938	12,802
商品及び製品	1,190	1,164
原材料及び貯蔵品	1,134	1,137
その他	3,609	3,721
貸倒引当金	△17	△14
流動資産合計	28,111	30,288
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,230	17,682
その他(純額)	8,824	7,924
有形固定資産合計	27,055	25,607
無形固定資産		
のれん	10,124	9,883
その他	1,911	1,709
無形固定資産合計	12,036	11,592
投資その他の資産		
敷金及び保証金	10,968	11,098
その他	11,992	12,057
貸倒引当金	△484	△458
投資その他の資産合計	22,475	22,698
固定資産合計	61,567	59,898
資産合計	89,679	90,186

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,027	8,193
短期借入金	—	317
1年内返済予定の長期借入金	11,163	10,859
1年内償還予定の社債	450	772
未払法人税等	943	881
ポイント引当金	324	319
役員賞与引当金	59	54
賞与引当金	2,241	2,046
株主優待引当金	223	134
その他	15,985	14,768
流動負債合計	39,419	38,347
固定負債		
社債	1,400	2,640
長期借入金	21,814	22,573
役員退職慰労引当金	551	561
資産除去債務	3,058	3,080
その他	2,990	2,848
固定負債合計	29,814	31,703
負債合計	69,233	70,051
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	3,277	3,277
利益剰余金	8,838	9,010
自己株式	△1,130	△1,648
株主資本合計	21,766	21,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	73	57
為替換算調整勘定	△1,488	△1,438
その他の包括利益累計額合計	△1,414	△1,381
少数株主持分	94	96
純資産合計	20,445	20,135
負債純資産合計	89,679	90,186

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	92,998	92,142
売上原価	80,642	80,032
売上総利益	12,355	12,109
販売費及び一般管理費	10,194	10,099
営業利益	2,161	2,009
営業外収益		
受取利息	10	9
受取配当金	7	7
団体定期配当金	142	106
負ののれん償却額	79	74
その他	66	233
営業外収益合計	305	431
営業外費用		
支払利息	591	457
寄付金	150	—
その他	123	103
営業外費用合計	865	561
経常利益	1,601	1,879
特別利益		
固定資産売却益	37	14
保険差益	11	—
特別利益合計	48	14
特別損失		
投資有価証券評価損	1	2
貸倒引当金繰入額	158	—
レストラン等店舗閉鎖損	27	3
その他	22	0
特別損失合計	210	5
税金等調整前四半期純利益	1,439	1,888
法人税、住民税及び事業税	662	1,028
法人税等調整額	552	119
法人税等合計	1,215	1,148
少数株主損益調整前四半期純利益	223	740
少数株主利益	3	7
四半期純利益	220	732

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	223	740
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17	△16
為替換算調整勘定	△10	49
その他の包括利益合計	△28	33
四半期包括利益	195	773
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	192	765
少数株主に係る四半期包括利益	3	8

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,439	1,888
減価償却費	3,787	3,480
のれん償却額及び負ののれん償却額	428	404
賞与引当金の増減額(△は減少)	△63	△200
貸倒引当金の増減額(△は減少)	148	△29
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△50	△89
受取利息及び受取配当金	△17	△16
支払利息	591	457
投資有価証券評価損益(△は益)	1	2
固定資産売却損益(△は益)	△37	△14
保険差益	△11	—
売上債権の増減額(△は増加)	△628	191
たな卸資産の増減額(△は増加)	△179	32
未収入金の増減額(△は増加)	175	128
仕入債務の増減額(△は減少)	375	157
未払消費税等の増減額(△は減少)	98	△280
未払金の増減額(△は減少)	△480	△234
未払費用の増減額(△は減少)	63	△127
預り金の増減額(△は減少)	166	115
その他	286	71
小計	6,093	5,938
利息及び配当金の受取額	16	16
利息の支払額	△576	△445
保険金の受取額	13	—
法人税等の支払額	△689	△1,332
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,858	4,177
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金及び拘束性預金の預入による支出	△184	△308
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	184	184
有形固定資産の取得による支出	△437	△854
有形固定資産の売却による収入	253	2
無形固定資産の取得による支出	△533	△65
無形固定資産の売却による収入	—	16
子会社株式の取得による支出	△22	—
事業譲受による支出	—	△82
敷金及び保証金の差入による支出	△476	△598
敷金及び保証金の回収による収入	116	273
その他	△57	△89
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,157	△1,521

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	411	396
短期借入金の返済による支出	△238	△80
リース債務の返済による支出	△1,877	△1,721
長期借入れによる収入	6,432	7,214
長期借入金の返済による支出	△6,213	△6,805
社債の発行による収入	1,954	1,759
社債の償還による支出	△262	△237
配当金の支払額	△581	△560
自己株式の取得による支出	△466	△517
その他	△7	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△849	△558
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	7
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,842	2,104
現金及び現金同等物の期首残高	8,338	9,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,181	11,128

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (6) セグメント情報等

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	568	15,425	18,671	23,161	8,674	6,997	17,964	91,463	1,534	92,998
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	22,528	329	7	23	32	7	74	23,003	864	23,867
計	23,097	15,754	18,678	23,185	8,707	7,004	18,039	114,466	2,398	116,865
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,187	919	681	684	△338	195	899	5,229	137	5,367

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,229
「その他」の区分利益	137
セグメント間取引消去	△156
全社費用(注)	△3,049
四半期連結損益計算書の営業利益	2,161

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	583	15,643	17,820	22,242	8,585	7,206	18,658	90,740	1,401	92,142
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	20,562	402	5	14	31	8	67	21,090	866	21,957
計	21,145	16,046	17,825	22,256	8,616	7,215	18,726	111,831	2,268	114,099
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,857	949	636	590	△220	222	970	5,007	37	5,045

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,007
「その他」の区分利益	37
セグメント間取引消去	△0
全社費用(注)	△3,035
四半期連結損益計算書の営業利益	2,009

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。